

第6学年全国学力調査結果

調査日：平成31年4月18日

1. 国語の項目別分析

<全体として>

- ・どの項目についても、全国平均を大きく上回っている。
- ・本年度から、A問題（基礎）B問題（応用）でなく、混合の問題となった。大問は3つだが、それぞれの中に「知識」「活用」に関する問題があり、答え方も選択式、短答式、記述式などさまざまである。記述式では、文章に線を引くなど手がかりを見つけながら問題を解いていくことができていた。

<課題の残る項目>

- ・公衆電話について調べたことを、「調査の内容と結果」の（1）（2）でわかったことをまとめて書くという問題は、条件にあわせて書く「活用」型の問題であった。条件を満たして書けていれば正解なので、自分の考えを理由を明確にし、まとめて書く力が求められた。
- ・昼職人への「インタビューの様子」の質問の工夫を選ぶ問題では、50.0pと全国67.4pを下回った。目的に応じて質問の言葉を変えるなど工夫する力が求められた。

(今後の取り組み)

- ・主語や述語などをはっきりさせて日記や作文を書かせるようにしていく。
- ・天声こども語をノートに書き写す取り組みをしている。文を書くスピードも上がり、要約や言葉の意味調べなどもできている。今後も続けていく。
- ・読書は好きだが、自分の好きなジャンルの本しか選ばないので、図書館司書にお勧めのリストを作成してもらい、いろいろなジャンルの本に挑戦させるようにする。

2. 算数の項目別分析

<全体として>

- ・全体としては、全国平均を大きく上回っている。領域別では図形が県平均、全国平均を下回った。
- ・国語と同じく、基礎と応用の混合問題である。大問4つの中に、「知識」「活用」に関する問題があり、すべての問題が活用に関する問題になっているのが特徴である。
- ・大問3では、計算の仕方を考えるのに、どれを選んでも解けるようになっており、自分の計算しやすい方法で答えを求めることができるようになっていた。考え方は1種類ではないことを普段

の授業から定着させる必要がある。

<課題の残る項目>

- ・ 2つの合同な図形を組み合わせてできる図形を選ぶ問題では、50.0pと全国60.3pを下回った。図形に線を引くなど確かめが必要である。
- ・ 遊園地のゴンドラに何秒後に乗ることができるかを計算する問題では、50.0pと全国68.6pを下回った。

(今後の取り組み)

- ・ 全国平均を下回った図形領域については、ブロック遊びなどを通して、図形や空間について身につけさせていく。
- ・ 授業で考えを書き説明する活動を多く仕組むことで、活用問題にも慣れてきているので継続していく。
- ・ 今後も、基礎・基本の定着をめざした取り組みを大事にしていく。

3. 各教科共通の取り組み

- ・ 本校児童は、学習にしっかり取り組もうとする意欲はある。授業では書く活動に取り組んでおり、全問で無回答0だった。
- ・ 今回の学力調査では、これまで学習した内容を使って自分の考えを書く問題が多く出されていた。これからも「自分の考えをもつ」ことを大切にしたい授業を行い、さらにみんなで深める授業を行っていく。
- ・ 6年なので、これまでの基礎・基本はしっかりおさえておきたい。そのために、家庭学習では主に復習を中心とした基礎・基本の力をめざす内容に取り組ませる。
- ・ 多くの体験活動が学力の基礎を支えている。家庭や地域と連携していろいろな活動の体験をさせ、応用力を身につけさせる。

4. 児童質問紙から

数値は「あてはまる」の集計 (%)

(あてはまる、どちらかと言えばあてはまる、どちらかと言えばあてはまらない、あてはまらない)

○「あてはまる」が100%であった項目

番号	項目
1	朝食を毎日食べる
4	家の人と学校のできごとについて話す
5	自分には良いところがあると思う
8	将来の夢や目標を持っている
9	物事を最後までやりとげてうれしかったことがある
15	いじめはどんな理由があってもいけない
16	人の役に立つ人間になりたい
21	読書は好き
22	新聞を読んでいる
23	今住んでいる地域の行事に参加している
24	地域や社会をよくするために何をすべきか考える
26	日本や住んでいる地域のことを外国の人にもっと知ってもらいたい
41	国語の授業で学習したことを、普段の生活の中で話したり聞いたり書いたり読んだりするときに活用しようとしている
50	算数の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考える
52	算数の問題の解き方が分からないときは、諦めずにいろいろな方法を考える

△全国と比べて20P以上下回っているもの

番号	項目
3	毎日、同じくらいの時刻に起きている
35	これまでの授業で、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた
36	これまでの授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していた

【 考 察 】

- 生活リズムがある程度整っていて、自己肯定感も高い。
- 学習に熱心に取り組み、学習したことを生活に生かそうとしている。
- 新聞やニュース等を通じて、社会のことを知ろうとする意欲がみられる。自分の地域のことにも興味を持っている。
- 授業への積極的な取り組みや、相手を意識した発表の仕方などはこれからも指導が必要である。授業だけでなく、行事やなかよし班などを活用し取り組んでいきたい。